

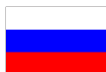
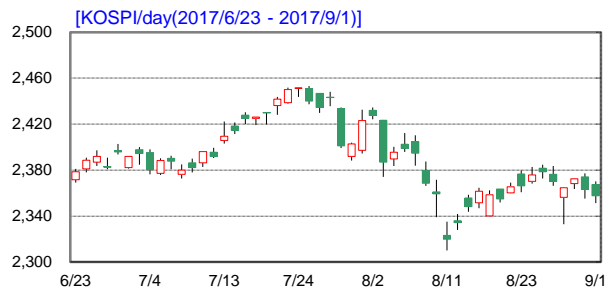


【韓国】 総合指数は週間で0.9%安と3週ぶり反落、北朝鮮リスク懸念が再浮上

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.9%安と反落。週初の28日に反落して始まり、週中に押し目買いの動きもみられたが、総じて売り圧力が強い展開となり、2週間ぶりの安値圏で終えた。前週末のサムスン電子トップに対する実刑判決を受けた同グループの「リーダーシップの空白」への懸念が高まったことに加え、29日には北朝鮮が日本上空を通過する弾道ミサイルを発射し、投資家のリスク回避姿勢が強まった。ただ、1日に発表された消費者物価指数(CPI)など好調な国内経済指標が相場を支え、下値は限られた。今週は5日に外貨準備高や国際収支、8日には主要貿易相手先である中国の8月の貿易統計が発表される予定。核実験を強行した北朝鮮を巡る地政学リスクは9日の「建国記念日」に向けてさらなる高まりをみせるか。

▼指数チャート

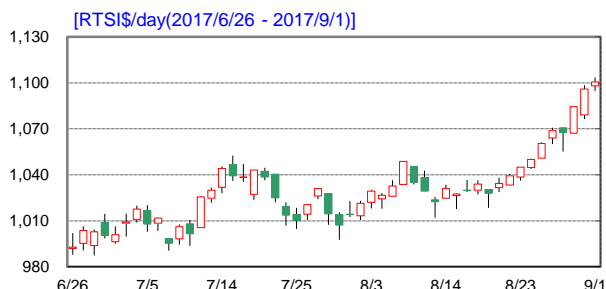


【ロシア】 RTS 指数は週間で3.8%高と3週続伸、今週も買い優勢の展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で3.8%高と3週続伸。前週には3.2%高と大きく上げ、先週はそれを上回る大幅な続伸となった。週前半は前週末終値を挟んでのみみ合い。29日にロシア中央銀行が民間の大手行オトクリティを救済したことで経営危機が他行の資金繰りに波及するとの懸念が後退。30日に反発し、1日まで3日続伸した。ロシアの2017年GDP成長の市場予想が前回の1.4%から1.7%に上方修正されたことも支援材料。ロシア中央銀行が9月の会合で市場予想通り8.75%への利下げを実施し、年内に8.25%まで引き下げれば、見通しはさらに改善するとみられる。指数は1日に前日比0.4%高の1100.58ドルで引け、終値では5月17日以来の1100ドル超えて週の取引を終えた。急騰後の反動をこなしつつ、今週も買い優勢か。

▼指数チャート

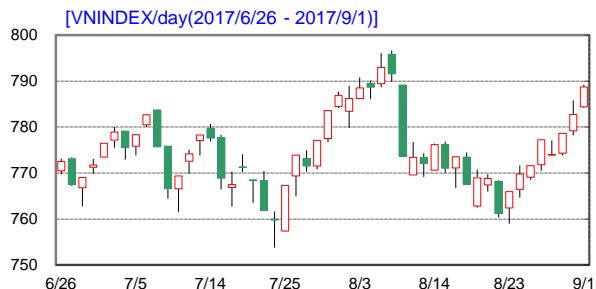


【ベトナム】 VN 指数は週間で2.2%高と続伸、今週は引き続き堅調な値動きか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は2.2%高と続伸。前週に3週ぶりに反発した流れを受け、先週も主力銘柄を中心に上昇トレンドが続いた。先週発表された複数の経済指標も好感され、相場を支えている。北朝鮮のミサイルが日本上空を通過したとの報道を受け、指数は週央まで前週末終値をやや上回る水準でもみ合う展開。ただ、31日に780ポイントを上抜けると、1日は789.19ポイントまで上値を伸ばし、788.73ポイントで終了した。29日発表の8月のCPI上昇率が前年同月比3.35%(市場予想:2.50%)、1日発表の8月の日経ベトナム製造業PMIが51.8(前月:51.7)といずれも堅調。個別では指数ウエート4位のビンググループが10.9%高と指数を押し上げた。子会社のIPOが月内にも実施されるとの観測が好感された。今週も堅調な展開か。

▼指数チャート

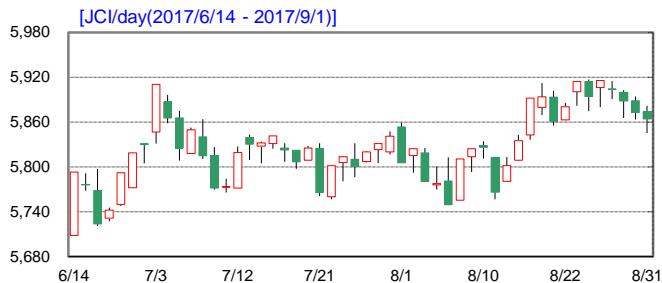


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.9%安、テレコムカシ・インドネシアの通信衛星が故障

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で0.9%安と3週ぶりに反落。8月月間では0.4%高。先週は4日続落とさえない値動きだった。週初の28日は反落してスタート。前週末に発生した国営通信テレコムカシ・インドネシアが所有する通信衛星の不具合で一部のATMが取引中止となったことを受け、同社と影響があった銀行の一角の株価が下落した。その後も買い材料に乏しく、じりじりと下値を広げて取引を終了している。今週は4日発表の8月のCPIに対する市場の反応が焦点。外部要因では、北朝鮮を巡る地政学リスクに加え、中国の8月の財新製造業PMIや貿易統計の内容が株式相場を左右しそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.5%高、今週は4日に8月の製造業PMI発表

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で0.5%高と続伸。8月月間では1.6%安。先週は外部要因が指数上昇に寄与した。週初の28日は米テキサス州を襲ったハリケーンの被害で一部の製油所の稼働が停止し、ガソリン先物価格が値上がりしたことを受けてエネルギー株が買われ指数は反発。同日の中国本土市場が証券株を中心とする値上がりで堅調だったことも好感された。29日は反落したものの、その後は週末まで続伸して取引を終了した。今週は4日大引け後に発表される8月の製造業PMIに注目が集まりそうだ。前週末のNYダウが8月のISM製造業景況指数の上昇を受けて4日続伸したことは好材料。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 2.7%高、政治不安緩和への期待感で2年半ぶりに1600ポイント回復

SET指数は週間で2.7%高と3週続伸。8月月間では2.5%高。先週は国内の政治不安緩和に対する期待感が指数を大幅に押し上げた。週初の28日は反発して始まった。在任中の政策を巡る公判を欠席したインラック前首相が国外逃亡したことを受け、兄のタクシン元首相の求心力が低下するとの見方から政治的緊張の緩和への期待が広がり、幅広い銘柄が買われた。29日は前日比1.8%高と終値で1600ポイント台に達し、15年2月以来の高値を更新。1日は8月のCPI上昇率が前年同月比0.3%と2カ月連続でプラスだったことが好感された。今週は国内のイベントが少ない中、前週の勢いを維持できるかが焦点。

▼指数チャート

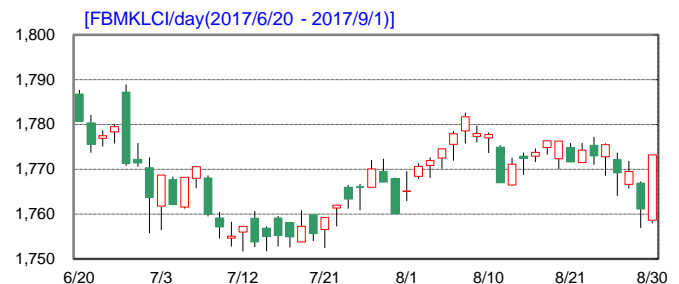


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、今週は7月の貿易統計に期待

クアラルンプール総合指数は3日間の取引で0.2%高と反発。8月月間では0.7%高。先週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右された。29日は北朝鮮が発射したミサイルが北海道上空を通過したことによる地政学リスクの高まりを受け、金などの逃避買いが進んだ影響で指数は反落。一方で30日は翌日からの連休を控え、大引け間際を買われて反発した。今週は6日に7月の貿易統計が発表されるほか、7日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。市場では輸出額の伸び率が前年同月比24.8%の高水準になると予想されている。政策金利は7会合連続で3.0%に据え置かれるとの見方が優勢。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。